74 期リレーエッセイ

50分の1年目になるように

会員　八谷 和毅

1　はじめに

私が弁護士となった74期は，コロナで試験日程が3か月後ろ倒しになったため，4月に一斉登録が行われることとなった。異例のスタートとなったが，気が付けば5か月程度が経過していた。ここまで夢中で走ってきており，また走り始めたばかりではあるが，今自分なりに考えたことを述べたいと思う。

2　会派活動について

私の今の生活と，司法試験合格前に思い描いていた弁護士生活と最も異なっていることは，会派活動の有無である。私の学生時代には，会派活動に熱心な弁護士が身近にいなかったため，自分が会派活動を行うどころか，会派活動が何かについても理解していなかった。

しかし，幸運なことにお世話になっている事務所の方々や，大学時代からずっとお世話になっている先輩とのご縁があり，弁護士バッジをもらうより先に，会派に所属することになった。そして，実際に末席として会派活動に参加してみると，慰労会等の各イベントの際には，新人からベテランまで様々な弁護士が駆けつけて交流しており，世代を超えた繋がりを強く感じた。

また，会派活動としては，法律相談関係の活動をお手伝いさせていただいているが，その活動の一環として，会員の先輩方が法律相談をする姿を間近で見ることができた。所属事務所以外の弁護士が行っている法律相談を見る機会は滅多にないと思うが，弁護士5か月程度のこの時期に，色々な先輩方の法律相談を見て参考にできることは，自分のスタイルを考えるにあたって非常に有意義な経験であった。

3　弁護士の多様性と理想像

とてもありがたいことに，私は一般的な74期と比べて，多種多様な先輩方と交流させていただけていると思っている。そして，それは非常に恵まれているとも思っている。何故なら，このような交流を通じて自分の理想の弁護士像をつかむことができるように思えるからである。

何事にも，目標とすべき理想像は必要であると考えているが，特に，弁護士は様々なスタイルの弁護士がいるから，具体的な理想像を作り上げるのは難しいと思う。実際に，お会いした先輩方は，弁護士業務としての得意分野は勿論，信念や家族，事務所経営やライフワークバランス等に関する考え方は様々だった。

しかし，その先輩方から成功談や反省等の様々なお話を聞くことによって，見習うべき道や，避けなければいけない道が明らかになると思う。「立派な」や「活躍できる」という抽象的なものではなく，より具体的な理想像を形成していけるのではないかと考えている。

4　この先の弁護士人生

私はようやく弁護士人生を走り出せた段階であり，ここから理想像を形成できるか，そしてどれだけ理想像に近づけるかは，日々の努力次第である。仕事を覚え，一人でできることを増やしていくことは勿論，自己研鑽や交流を通じて，描いた理想像に近づいていきたい。

また，心身の健康維持も忘れないようにしたい。漸く理想像に近づけたとしても，その後の弁護士生活が短ければ意味はない。幸いにして弁護士業には定年がないので，将来この一年目を「50年の弁護士生活の1年目」と呼べるように，早めに自分に適したスタイルを獲得し，末永く活躍できる弁護士を目指したい。